

編集 後記

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生から5年が経過しましたが、今年の冬は新型コロナウイルスやインフルエンザにとどまらず、マイコプラズマ肺炎の患者数が過去最多レベルを記録するなど、さまざまな感染症で患者数の増加が報じられています。実際、私の周囲でも、昨年より体調を崩している人が増えているように感じます。行政や医療現場で感染症に関する情報発信や感染予防の啓発活動に携わっている方も多いと思いますが、改めて感染症予防の取り組みの重要性を認識しています。

第72巻2号では、原著1報、公衆衛生活動報告2報、資料3報が掲載されています。特に公衆衛生活動報告では、感染症や災害発生時などにおける公衆衛生現場での活動のあり方や方策について議論されています。檜垣らの報告では、これまで実地で行われてきた病院実地立入検査がコロナ禍において書類審査に変更されたことを受け、その違いや問題点を挙げつつ、パンデミック時を視野に入れたオンライン併用医療監視の検討の必要性を述べています。林による報告では、福祉事務所での被保護者健康管理支援事業における生活保護受給者の健診受診およびワクチン接種と社会的孤立の関係を分析し、特に予防的サービスの勧奨において「対面接触」と「オンライン」のサポートをうまく組み合わせる支援が必要であることが述べられています。さらに森山らの資料では、災害発生時に避難行動要支援者が適切な福祉避難所に入所できるようにするための個別避難計画策定に関わる理学療法士を対象に、避難者対応に関する用語の知識や活用状況について調査し、災害対応に積極的に参画できるようにするための方策検討の必要性が述べられています。近年発生している健康危機や災害を鑑み、現場における健康危機管理や対策に向けた検討や活動が広く行われていることがうかがえます。

また、清水らの原著では在宅高齢者の転倒・転落に関連する外的要因として、住宅内の機器等に着目した分析が行われています。吉田らの資料では、離島に住む高齢者が住み慣れた地域で生活し続けることへの思いについて検討されています。一方、金子の資料では、労働者の仕事の量・質に関する職場でのストレスに着目し、主観的ウェルビーイングとの関連を検討しています。

高齢化率の上昇や社会経済情勢の変化などにより、私たちの生活環境はどの世代においても大きく変化しており、公衆衛生の研究や活動はますます重要になると考えられます。今後も、皆様からの実践や研究成果の投稿をよろしくお願いたします。（高橋邦彦）

次号予告（第72巻・第3号）

原著

高等学校2年生のがんリスク認知の関連要因：がん対策推進に資するがん教育ロジックモデルに基づく全国調査データの解析
 …… 助友裕子，他
 「20歳から10 kg以上の体重増加の有無」と肥満の有無の組み合わせが糖尿病新規発症に与える影響
 …… 成瀬華子，他

Original Article

Association between burnout and job-quitting intentions among public health center staff during the COVID-19 pandemic: A nationwide survey in Japan
 …… Kazuya TAIRA, et al
 Developing and testing a draft scale evaluating older adults' perceptions of community-based connectedness with people: A pilot study
 …… Mami KIKUCHI, et al

資料

看取り期にある施設入所高齢者のリロケーション発生の実態：匿名介護情報等を用いた観察研究
 …… 白片 匠，他

Information

Foster parent support and needs of public health nurses, pediatric nurses, and childcare workers: A survey of three municipalities with high foster parent placement rates in Japan
 …… Yoko ISHII, et al